

平成17年10月期 第二級陸上特殊無線技士 試験問題

法規 12問 } 24問 1時間  
無線工学 12問 }

法 規

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)してください。

- 〔1〕 無線設備の変更の工事の許可を受けた後、許可に係る無線設備を運用するためにはどうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。
1. 当該工事の結果が許可の内容に適合している旨を届け出なければならない。
  2. 総務省令で定める場合を除き、総務大臣の検査を受け、当該工事の結果が許可の内容に適合していると認められた後でなければならない。
  3. あらかじめ運用開始の予定期日を届け出なければならない。
  4. 工事が完了した後、運用したい旨連絡しなければならない。
- 〔2〕 陸上移動業務の無線局(免許の有効期間が1年以内であるものを除く。)の再免許の申請は、次のどの期間内に行わなければならないか。
1. 免許の有効期間満了前3箇月以上6箇月を超えない期間
  2. 免許の有効期間満了前2箇月以上3箇月を超えない期間
  3. 免許の有効期間満了前2箇月まで
  4. 免許の有効期間満了前1箇月まで
- 〔3〕 電波の質として電波法に規定するものは、次のどれか。
1. 空中線電力の偏差
  2. 変調度
  3. 信号対雑音比
  4. 周波数の幅
- 〔4〕 第二級陸上特殊無線技士の資格を有する者が、陸上の無線局の空中線電力10ワット以下の無線設備(多重無線設備を除く。)の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作を行うことができるのは、次のどの周波数の範囲の電波か。
1. 1,606.5キロヘルツ以下
  2. 1,606.5キロヘルツから4,000キロヘルツまで
  3. 4,000キロヘルツから21,000キロヘルツまで
  4. 21,000キロヘルツから25,010キロヘルツまで
- 〔5〕 無線従事者の免許証を返納しなければならないのは、次のどの場合か。
1. 無線従事者の免許を受けてから5年を経過したとき。
  2. 無線通信の業務に従事することを停止されたとき。
  3. 5年以上無線設備の操作を行わなかったとき。
  4. 無線従事者が失そうの宣告を受けたとき。
- 〔6〕 第二級陸上特殊無線技士の資格を有する者が、レーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作を行うことができるのは、次のどの無線局か。
1. 実験局
  2. 海岸局
  3. 無線航行局
  4. 航空局

## 法

## 規

〔7〕 空中線電力 50 ワット以下の固定局の無線設備を使用して応答を行う場合において、確実に連絡の設定ができると認められるとき、応答事項のうち送信を省略することができる事項は、次のどれか。

1. どうぞ
2. (1) こちらは 1 回  
(2) 白局の呼出名称 1 回
3. 相手局の呼出名称 3 回以下
4. (1) 相手局の呼出名称 3 回以下  
(2) こちらは 1 回

〔8〕 臨時検査（電波法第 73 条第 4 項の検査）が行われる場合は、次のどれか。

1. 臨時に電波の発射の停止を命ぜられたとき。
2. 無線設備の変更の工事を行ったとき。
3. 無線従事者選解任届を提出したとき。
4. 無線局の再免許が与えられたとき。

〔9〕 免許人等が電波法に違反したとき、その無線局について受けることがある処分は、次のどれか。

1. 無線従事者の業務の従事停止
2. 通信の相手方の制限
3. 電波の型式の制限
4. 運用の停止

〔10〕 無線局が非常通信を行ったとき、電波法の規定により免許人等がとらなければならない措置は、次のどれか。

1. 総務省令で定める手続により承認を受ける。
2. 総務省令で定める手続により、総務大臣に報告する。
3. 非常災害対策本部長に届け出る。
4. 地方防災会議会長に報告する。

〔11〕 無線局の免許人等は、無線従事者を選任又は解任したときは、電波法の規定により、どのような手続をとらなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 2 週間以内にその旨を届け出る。
2. 1 箇月以内にその旨を報告する。
3. 速やかに総務大臣の承認を受ける。
4. 遅滞なくその旨を届け出る。

〔12〕 固定局の無線業務日誌に記載する時刻は、次のどれによらなければならないか。

1. 中央標準時
2. 協定世界時
3. 協定世界時。ただし、これによることが不便である場合は、中央標準時
4. 中央標準時又は協定世界時